

人吉市立学校のあり方検討委員会 NEWS

ハイライト:

- ・第2回会議は令和7年11月4日(火)14時から行われ、委員21人が出席しました。
- ・委員は三つのグループに分かれ、テーマに基づいてワークショップ形式で話し合いました。
- ・学校や児童生徒を取り巻く各校区の現状や地域の課題等について様々な意見が出されました。

会議次第

1. 開会 14:00
2. 委員長あいさつ
3. 教育委員会あいさつ
4. 議事(意見交換)
5. その他
6. 閉会 16:10

学校のあり方検討委員会委員

(敬称略)

八幡 彩子	熊本大学大学院教授
安達貴美子	元小学校長
小柿 勇	市内小学校長
松本 幸保	市内中学校長
加登住 亮	市保育園連盟
田中麻美子	市幼稚園連盟
吉田 肇	人吉東小保護者
村山 靖典	人吉西小保護者
山本誠一郎	東間小保護者
磯崎 竹雄	大畑小保護者
白木 真志	西瀬小保護者
鬼塚 貴臣	中原小保護者
藤田 智大	第一中保護者
永田 政司	第二中保護者
宮崎 正幸	第三中保護者
大平 和明	東校区町内会
城本 雄二	西校区町内会
川内昭一郎	東間校区町内会
東 照夫	大畑校区町内会
竹田 博	西瀬校区町内会
尾曲 義秋	中原校区町内会
岡本伸一郎	校区公民館長
尾方 治則	民生児童委員協議会

学校を取り巻く現状と地域の実情を踏まえ、学校教育の質の維持・向上を図るため本市の学校はどうあるべきか

会議のはじめに、八幡委員長が「第1回会議ではおもに教育委員会から学校の適正規模や、児童生徒数、学級数、教職員数の今後の動向、施設改修の今後の見通しなどについて説明がありましたが、その折に、「これからの教育のあり方について話し合う機会を持つてはどうか」という非常に貴重なご意見をいただきました。本日はそうした意見を踏まえ、グループに分かれて話し合う場を設けましたので、テーマに沿って、学校規模や学校配置についてどうあってほしいか、忌憚のないご意見を頂戴したい。」とあいさつされました。

続く教育委員会あいさつでは、志波教育長が「一昨年の東間小、昨年の大畑小に続き、今年是人吉東、人吉西、西瀬、中原の四つの小学校が創立150周年を迎え盛大に記念式典が行われます。学校がこれまで地域に支えられ、教育や伝統をしっかりと刻み込んできたことが熱い思いとして伝わってきます。学校は子どもたちのため、地域の



八幡委員長あいさつ

ためにあるべきもので、大切にしていかなければいけない。それは、形ではなくスピリット、魂のようなものを強く感じたところです。本日は皆様から本市の学校はどうあるべきかというご意見を賜り、今後の本市の学校のあり方を教育委員会として考えていきたい。」とあいさつされ、意見交換に移りました。

ワークショップテーマ①「地域(校区)の子ども状況は？」

議事(意見交換)では中学校区の3班に分かれ、二つのテーマでワークショップに取り組みました。各班から出たおもな意見は次のとおりです。

A班:一中校区(人吉東小、東間小、一中)

■一中は生徒数減少で車庫に余裕ができたこともあり、自転車通学エリアを拡大して許可してある。一方、近年は小・中学校とも自家用車の送迎が増えている。その影響で東間小では道路が狭く見通しの悪い正門前の道路で朝夕渋滞が発生するなど新たな問題が生じている。

■少子化問題をどう改善するかがポイントになると思うが、子どもの遊び場が少ないので、整備して魅力を向上させれば移住者も増えるのではないかと心配。

■子ども会活動が近年少なくなっている。子ども会がなくなった町内もあり、住民との関わりが薄れ、地域コミュニティが希薄になってきている。

■臼太鼓など地域の伝統文化も継承者が少なくなるのではないかと心配。性別に関係なく参加可

能にするなど工夫が必要になってきている。

■東間校区では校区全体で連携した取組を強化しようと頑張っているが、子ども会活動にご理解いただけない家庭もあって難しさも感じている。

■学校再編となれば各地域の伝統等の伝承に影響が出て来はしないかと心配だ。子ども神輿なども含め考えていく必要があると思う。

■児童生徒数の減少をある程度推計してから議論を深める必要があるのではないかと心配。



A班(一中校区)

人吉市立学校のあり方検討委員会 NEWS

B班：二中校区(人吉西・西瀬・中原小、二中)

■子どもが減少し高齢者が増えているが、少ないからこそそのびのびしている部分もある。

■子どもが減って子ども会そのものが組織されない町内もあり、サッカー大会などの市子連行事に参加しないため地域との関わりが減少している。校区の運動会も人集めに苦労している。

■町内行事においてはスムーズに人が集まるようになった。5～10年前は人数が多いわりに参加が少なかったが、今は高齢者に偏ったサービスを反省し、児童の誕生祝い等をしている。関わり不足と言いつつ、いい環境を整備するとい結果も出るのではないかと。

■子どもの遊び場が減少している。ボール遊びをはじめ禁止事項が多いためか外で遊ぶ子どもが少なくなっており、地域で子どもが育っているという実感がなくなっているようだ。

■外遊びをしないことに関連して言えば、子どもが運動に親しむ機会が少なくなるので、(運動する子としない子の)二極化が進んでいるのではないかと。

※そのほか、通学距離や不登校関係が非常に気になっているという意見もありました。



B班(二中校区)

C班：三中校区(大畑小、三中)

■当校区は学校と地域のつながりが非常に

強い。子どもたちは素直で純朴でとてもいい。

■学校と地域行事、老人会とのつながりや、子ども会、わくわくサポーターの取組がとても密で、小さい地域ならではの良さがある。

■子どもたちとのふれあいは年々減少していて、あいさつ運動で通学路に立っていても子どもの通行が少なく、実際に会わないことも増えてきている。

■三中校区でも子ども会自体が減少している。子どもの人数が減ることで子どものチャンスが少なくなっているのではないかと。

■大畑小は東間小と合同で修学旅行に行ったり、4年生の学習では一日民生委員として地域とつながる活動を行ったりしている。就学前交流事業のように市全体で集まる機会もある。時代の流れとして地域活動のあり方を考えてみるのもいい。

ワークショップテーマ②「学校規模・学校配置はどうあってほしいか」

B班：二中校区(人吉西・西瀬・中原小、二中)

■可能なら現状の学校数を維持してほしい。

■大規模校だと友達が増える。つながりも増えるという良さがある。小規模校だと教師と児童生徒の距離が近く、個性に合わせた指導がしやすいのではないかと。

■学校規模が小さくなくても教育活動は十分に与えられるようにしてほしい。学校規模や配置が変わっても、子どもたちが地域に愛着を持ち、子どもを地域で守る環境を続けていくことが大切ではないかと。

■学校配置は市内3地区に分けた学校数にし、授業に合った整備が必要ではないかと。

■学校は自然豊かな村山台地にある二中に集約し、10年、15年先は一戸集中校舎の半分を中学校、半分を小学校にしては、同時に通学方法も検討する必要がある。

■学校統合するなら新校舎を建てる必要がありそう。小中一貫教育にしてはどうか。

■廃校になる学校がある場合は、フリースクールやキャンプ場として活用してはどうか。

■配置が変われば中学生は徒歩と自転車、小学生は巡回バス等での通学も考えられる。

C班：三中校区(大畑小、三中)

■学校がなくなると地域が寂れていきそう。現状のままにするか、三中校区として小・中一貫

校にしてほしいという気持ちがある。

■各学年2クラスあれば適切な学校運営ができるのではないかと。

■小規模校は学習環境としてはとてもいいと思うが、「良いはずだ」という思いなので、実際はどうなのか教育の質や実態を把握したい。学力の実態は？教員の意識レベルは学校規模の大小で違う？それはどう測ればいい？

■教育の質が上げれば小規模校でも転入が増えるかもしれない。学校間の交流事業や学習の交流があってもいい。授業参観を増やして保護者が学校を知ることが大事。

A班：一中校区(人吉東小、東間小、一中)

■クラス替え可能な規模が理想。人間関係やコミュニケーション能力向上が図れる。

■市内を2つのエリアに学校再編しては。

■学校が1学年1学級だと、中学校では3年間ずっと同じ先生に教わることもある。これははたして子どもにとって良いことなのか？

■ハード面が心配。築30年以上の建物が7割を超える現状ではますます改修費用が気になる。建て替えたほうがいいのか？

※そのほか、学校施設の安全面や維持費を心配する意見、部活動や通学距離の課題に関する言及も多かったです。



C班(三中校区)

【委員長まとめ】

地域の実情を踏まえ貴重な意見を頂戴しました。地域の拠点として地域に学校を残したいという意見と、全市的な見地から学校を集約することで学校規模を維持し、多くの教員の確保とクラス替えを可能にすることで活性化できるなど、いろんな知恵をお聞かせいただきました。一朝一夕で答えが出る問題ではないですが、私たちはもうしばらく悩みながら答えを導いていきたいと、皆様の意見をうかがって思いました。引き続きよろしくお願ひします。

【今後の取組】

第3回会議は2月開催の予定です。次回も同じ形式での意見交換を望む声がありましたので、意見が出しやすい場を設定いたします。次年度は会議回数を増やしつつ、各校区の住民の意見を伺う機会を設けたいと考えています。